

第14回 日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会



令和5年4月22日(土)、23日(日)、7月8日(土)
予備7月9日(土)

開催球場

金沢学院グリーンフィールドⅢ、富山県営新港野球場、
立山町総合公園野球場、滑川市営本丸球場、南砺市城南スタジアム、
物見山野球場、寺井野球場、片山津野球場

- ◆主催 (公財)日本少年野球連盟 北陸支部
- ◆共催 北國新聞社
- ◆後援 (公財)日本少年野球連盟
- ◆協賛 ハイゴールド

J a p a n B o y B a s e b a l l



野球をしながら 団結・友愛・規律・勇気・忍耐を 身につけよう

(公財) 日本少年野球連盟規約 第四条

この法人は、ボーイズリーグを通じ、硬式野球を愛好する少年に、正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて、心身の練磨とスポーツマンシップの理解に努め、規律を重んずる明朗な社会人としての基礎を養成し、次代をになう少年の健全育成をはかることを目的とする。

公益財団法人 日本少年野球連盟
会長 惣田 敏和

ご挨拶



大会名誉会長

北國新聞社

社長 砂塚 隆広

第14回日本少年野球北國新聞社旗争奪北陸大会を盛大に開催できますことを誠にうれしく思います。本大会は、野球を通して少年の健全な成長を願い、2010(平成22)年に第1回大会が開催され、今年も石川県をはじめ6府県35チームの野球少年が熱戦を繰り広げます。

日本少年野球連盟(ボーイズリーグ)は、数多くのプロ野球選手を輩出しています。メジャーリーグではダルビッシュ有投手、前田健太投手が活躍し、日本のプロ野球では田中将大投手をはじめ、県内出身者では小松ボーイズの島内宏明選手や白山能美ボーイズの京田陽太選手、加賀ボーイズの山崎颯一郎投手といった選手が努力と鍛錬を重ねて夢をつかみ取りました。

日ごろ、大きな夢をもって硬式ボールを追いかけ、本大会に顔をそろえた選手の皆さんの健闘を祈ります。また、野球を愛する者同士、交流を深める機会となれば幸いです。

結びに、開催にあたってご尽力をいただいた関係各位に心より感謝を申し上げ、ごあいさつとします。

ご挨拶



大会長

(公財)日本少年野球連盟

北陸支部 支部長 山西 祥夫

第14回日本少年野球連盟北國新聞社旗争奪北陸大会に、各支部より多数のご参加を賜り、心より感謝申し上げます。

長かった新型コロナウイルス感染症も落ち着き、様々な制限が緩和され、通常通り開催できることを嬉しく思っております。

今年はWBCが開催され、侍JAPANが見事世界一となり、たくさんの方が野球に関心を持ちました。この勢いを追い風とし、今大会の参加選手の中からも、多くの甲子園球児、プロ野球選手が誕生することを楽しみにしております。そして、夢をもって活動できる環境づくりや選手の育成のため、北陸支部全体で取り組んで参りたいと思っております。

今大会を開催するにあたり、各支部、各チームにおいて御理解御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

最後になりますが、各チームの皆様におかれまして、ますますのご活躍を祈念いたし、本大会の挨拶とさせていただきます。

第14回 日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会 役員

大会 名誉 会長	北國新聞社社長	砂塚 隆広		顧問	(公財)日本少年野球連盟 名 誉 会 長	藤田 英輝
大会 相 談 役	(公財)日本少年野球連盟 理 事 北陸支部担当役員	伊藤 裕章		同	(公財)日本少年野球連盟 会 長	惣田 敏和
同	北陸支部相談役	林 茂信		同	(公財)日本少年野球連盟 副 会 長	堀内 健
同	北陸支部相談役	南山 修一		同	(公財)日本少年野球連盟 副 会 長	工藤 眞一
同	北陸支部相談役	南藤 陽一		相 談 役	(公財)日本少年野球連盟 専 務 理 事	大富 肇
大 会 長	北陸支部長	山西 祥夫		同	(公財)日本少年野球連盟 常 務 理 事	岡 陽一
大会 運 営 委 員 長	北陸支部長代理	村山 和光		同	(公財)日本少年野球連盟 常 務 理 事	橋高 浩二
大会 運 営 副 委 員 長	北陸副支部長	井野上 盛光		同	(公財)日本少年野球連盟 理 事	松本 行弘
大会 会 計 副 部 長	北陸副支部長・会計部長	定塚 泰良		同	(公財)日本少年野球連盟 理 事 待 遇	榊原 隆宏
大会 運 営 副 委 員 長	北陸支部理事	梅田 英範		同	(公財)日本少年野球連盟 理 事 待 遇	杉浦 眞一
同	同	佐々木 昭博		同	(公財)日本少年野球連盟 理 事 待 遇	藤本 善一
同	同	島 隆之		参 与	(公財)日本少年野球連盟 静岡県支部長	矢田 正行
同	同	中井 昌人		同	(公財)日本少年野球連盟 愛知県東支部長	富田 敏正
同	同	中山 晃一		同	(公財)日本少年野球連盟 愛知県中央支部長	東 亜行
同	同	中町 光教		同	(公財)日本少年野球連盟 愛知県西支部長	渡会 武則
同	同	野替 隆博		同	(公財)日本少年野球連盟 滋賀県支部長	谷 昌彦
同	同	野原 雅明		同	(公財)日本少年野球連盟 京都市支部長	西 康次
同	同	松山 健一				
大会 事 務 局 長	北陸支部事務局長	吉田 昌洋				
大会 事 務 局	北陸支部副総務部長	柚木 隆				
同	北陸支部副事務局長	金森 新一				
同	北陸支部副事務局長	南野 弘一				
大会 運 営 委 員	石川ボーイズ副代表	高松 陽一				
同	石川中央ボーイズ副代表	村濱 望		大会 審 判 長	北陸支部審判長	本定 敏夫
同	射水ボーイズ副代表	四柳 智理		大会 副 審 判 長	北陸支部副審判長	濱浦 健
同	加賀ボーイズ副代表	下口 勲		同	同	松代 勝矢
同	金沢学院大学 附属中学ボーイズ副代表	益井 逸希		大会 審 判 委 員	中日本ブロック	常任審判諸氏
同	金沢河北ボーイズ副代表	高松 直人				
同	小松ボーイズ副代表	井出 裕史				
同	高岡ボーイズ副代表	山田 博志				
同	となみ野ボーイズ副代表	武田 慎一				
同	富山ボーイズ副代表	宮田 克義				
同	富山中部ボーイズ副代表	小島 章予				
同	白山能美ボーイズ副代表	重吉 晃守				

〈 大会 規 定 〉

1. 1チームの登録選手は、11名以上25名以内(ベンチ入りは20名以内)とする。
2. 出場選手は本大会登録締め切り日現在、連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は2023年度発行のものに限る。
4. オーダー表記選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみがベンチに入ることができる。但し、各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチに入れないが、チーム責任者、監督、コーチは試合開始までに間に合った場合は、審査の上、その時点でベンチ入りができる(マネージャーの登録証携帯の有無は問わない)。また、選手は試合終了までに間に合った場合は、審査の上その時点でベンチ入りを認める。
なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
5. 組合せの若い番号が1塁ベンチ、後番号が3塁側ベンチに入る。ただし、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
6. 監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニホームを着用すること。マネージャーは同じ帽子を着用すること。
7. 試合開始時刻60分前に試合球場に到着し、直ちにオーダー表を5部、投球回数記録表(副)3部(初日2試合目・2日目)、大会本部に提出の上、所定の審査を受けなければならない。 ※「投手投球数記録表(副)」については「投手投球回数記録表(副)」を代用できる。
8. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
9. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れない時には、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣告することができる。
10. 試合方式など
 - (1) 各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を越えた場合、新しいイニングには入らない。(後攻チームの得点が先行チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する。)
 - (2) 降雨や視界不良などにより試合続行不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に試合が不可能になった場合はサスペンデッドゲームとする。
 - (3) 4回終了時(後攻チームの得点が先行チームの得点より多い場合は、4回表終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (4) 7回終了時、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を越えて(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。(競技に関する特別規則「タイブレーク実施規則」参照)
11. 投球数について (2022年度投球制限ガイドラインに基づく)
 - (1) 投手は1日最大80球以内とし、連続する2日間で120球以内とする。
連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球禁止とする。
3連投(連続する3日間)する場合は、1日の投球数を40球以内とし、4連投(連続する4日間)は禁止する。
 - (2) 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可能とする。
 - (3) (1)～(2)を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は翌日以降に投球にカウントしない。
 - (4) 連続する2日間で80球を超えた投手並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手としても出場できない。
 - (5) ボークは投球数としない。
 - (6) 雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。
 - (7) 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分配慮する事。
 - (8) ダブルハッターの場合で、2試合に登板した場合は、連続2日間投球したとする。
また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。
12. (1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示・伝達を認める。(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)
 - (2) 守備側の投手に関する指示、伝達が3回となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。
 - (3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
 - (4) 指示、伝達は審判がタイムを宣告してから「30秒以内」とする。
13. 1イニングで同一の投手に対する指示、伝達が2回となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することができない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
14. 審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。
15. 監督またはコーチが投手に指示などするときは、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)
16. 2塁走者やベースコーチなどが投手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
17. ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
18. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定道具【マスク、ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファウルカップ(一体型捕手用マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く)】を2組備えること。
20. ユニフォーム、バット(グリップテープ)、ボール、スパイク、クラブ等は連盟指定業者のものに限る。
21. 捕手は必ずヘルメットならびに指定防具を試合、練習を問わず着用すること。
- 22.グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
23. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
24. 光化学スモッグ発生(予報・注意報・警報)の場合、試合および選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
26. 大会中の負傷については応急処置を行うが、それ以外の責任は持たない。

参考

野球規則7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チーム総得点により決する。

【注】我が国では正式試合となった後のある回の途中でコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

- (1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
- (2) ビジティングチームがその回の裏でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうちにまたは裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレーク実施規則》

- (1) 特別守則
 - (イ) 延長8回あるいは試合開始から2時間を越えて(いずれか早い方)、決勝戦は10回あるいは2時間20分を越えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。
 - (ロ) 打者は、前回正規の打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
 - (ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の打順の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者とする。
 - (二) この場合の代打および代走は認められる。
- (2) タイブレーク時の、チームおよび個人記録
チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項を留意すること。
 - (イ) 投手記録
 - ・ 規定により出塁した3走者は、自責点とはしない。
 - ・ 完全試合は認めない。
 - ・ 無安打、無得点試合は認める。
 - (ロ) 打撃成績
 - ・ 規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
 - ・ 規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。

以 上

中学生投手の投球制限ガイドライン

レギュラーの部・ジュニアの部 大会

中学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は、以下のとおり制限する。

- ① 1日最大**80球**とし、連続する2日間で**120球**以内とする。
連続する2日間で**80球**を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を**40球**以内とし
4連投（連続する4日間）は禁止する。
- ② 大会中は1日**80球**以内とし、翌日投球を休めば3日目は**80球**の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で**80球**を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手
としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数としない。
- ⑥ 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- ⑦ 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

1年生大会

1年生大会の試合での登板は以下の通り制限する。

- ① 1日最大**70球**とし、連続する2日間で**105球**以内とする。
連続する2日間で70球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を**35球**以内とし
4連投（連続する4日間）は禁止する。
- ② 大会中は1日**70球**投球後、翌日投球を休めば3日目**70球**の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で**70球**を超えた投手、並びに3連投した投手は、
翌日は捕手としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数にしない。
- ⑥ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

共通事項

ダブルハッターの場合で、2試合に登板した場合は、連続2日間投球したとする。

また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。

小学生投手の投球制限ガイドライン

レギュラーの部・ジュニアの部 大会

小学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は以下のとおり制限する。

- ① 1日最大**70球**とし、連続する2日間で**105球**とする。
3連投(連続する3日間)は禁止する。
- ② 大会中は1日**70球**以内とし、翌日投球を休めば3日目**70球**の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
- ④ ボークは投球数にしない。
- ⑤ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

*小学部共通事項

1. ダブルヘッダーの場合で、2試合に登板した時は連続2日間投球した事とし、翌日は登板できない(ダブルヘッダーの登板は可/3連投は不可)
また、1試合のみ登板した場合は、1日の投球とする。
2. 小学部に於いては投手から捕手の制限は設けないが、指導者は十分考慮すること。

*補足・キッズの部(4年生以下)

キッズの試合での登板は以下のとおり制限する。(4年以下)

- ① 1日最大**50球**とし、2日間の連投は禁止する。(キッズは連投禁止)
- ② 打者の途中で制限数が来た場合は、当該打者の打席終了までは投球を認める。
制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
- ③ ボークは投球数にしない。
- ④ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

◎投球制限ガイドラインの補足説明

(1) ③について

打者の途中で制限が来た場合とは、投球日における可能投球数の事である。

中学レギュラーの部を例にすると、初日に於いては 80 球を超えた場合であり、また、初日 68 球投げた連投 2 日目であれば、2 日目の可能投球数 52 球を超えた最後の打者に適用される。

投手に 3 連投を予定していた場合には、初日、2 日目に 40 球を超えると 3 日目は投げることができない。初日、2 日目に於いて打者の途中であっても 40 球投げた時点で交代しなければ、3 連投できない。41 球投げれば 3 連投できない。(打者の途中での投手の交代は制限していない)

(2) ダブルヘッダーについて

ダブルヘッダーの試合は、その日の第 1 試合、第 2 試合どちらかで投げれば翌日(前日)の試合の連続扱いとする。(片方の試合に登板しなくとも休みとはしない)

両方の試合に投げた場合は、1 日の最大投球数 80 球(中学レギュラー)で連続の試合で投げたこととなり、翌日投げる場合、また前日投げている場合は、3 連投の扱いとなり、1 試合 40 球を超えていると投げられない。

投手投球数制限の運用細則

令和3年7月3日
(公財) 日本少年野球連盟

1. 投球数の定義

試合中に投手が捕手に向かって投げた球とする。

以下の場合、球数としてカウントしない。

①牽制球

②ボーク

※ただし走者なしの場合のボークで投球動作中にボールが手から飛び出し、ファウルラインを超えて「ボール」と宣告された投球数はカウントする。

③当該打者へ申告敬遠を行ってからの投球数

※雨などでノーゲームになった試合は投球数にカウントする。

2. 投球数の管理

①球場責任者は、スコアラー1名、投球数管理責任者と投球数管理者の2名を配置する。

②投球数管理責任者は別紙「投球数集計表(原本)」により記録する。

③もう一人の管理者は、カウンター、得点版(代用)等の器具を用いて投球数を計測する。

④イニング終了時に投球数管理責任者、管理者とスコアラーにより投球数を一致させる。

⑤投球数が一致しない場合は、3人のうち多い方を投球数と決定、3者が一致しない場合は投球数管理責任者の投球数を記録する。

⑥確定した投球数を次のイニング開始前にアナウンサーが球場にアナウンスする。

⑦投球数はイニング毎の投球数及びその投手の総数の投球数をアナウンスする。

(例「この回の得点は〇点、投球数は〇球です。なお、△□投手の総投球数は〇球です。」)

⑧各チームはアナウンスされた投球数と違うと判断した場合は、監督がタイムをかけて球場責任者及び投球数管理責任者と協議して投球数を決定する。

3. 運用・管理方法について

①当日の試合終了後、勝ち上がりチームは、「投手投球数記録表」(副3枚)を作成し球場責任者に提出すること。なお、当面は「投手投球回数記録表」(副)を代用して差し支えない。

②球場責任者は提出された「投球数記録表」(副)を上記2の投球数管理のもとに間違いがないかを確認し、「投手投球数記録表」(正)を作成、署名交付する。

③球場責任者又は勝ち上がりチームが責任を持って翌日以降の大会の球場責任者に対して、「投手投球数記録表」(正)及び(副3枚)を引き継ぎ、球場責任者は「投球数集計表(原本)」を保管する。

④翌日以降の球場責任者も①～③の手順に沿って投球数管理を行い最終的に大会本部に引き継ぐ。

「中学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

※レギュラー・ジュニアの部

	第一日 目	第二日 目	第三日 目	第四日 目	第五日 目	第六日 目	備 考
投手A	80	0	80	0	80	0	80球投げた翌日には登板していないため、翌々日には80球投球できる。 (打者終了時に80球を超えても、1試合分の最大カウント数は80球)
投手B	80	40	休	80	0	80	一日目80球、二日目40球で連続する2日間で120球となったため、三日目は投手・捕手として出場できない。(※また、2日間で80球を超えているので三日目は捕手として出場できない規定もある。投手D参照)
投手C	40	40	35	休	80	40	3日間連続40球以内であれば登板可能。ただし球数に関わらず3日間連続登板した場合は、四日目は投手・捕手として出場できない。 四日目が休みだったので、五日目80球、六日目40球の投球は可能。
投手D	40	45	休	30	60	休	一、二日目で80球を超えたため、三日目は投手・捕手として出場できない。 四、五日目で連続する2日間で80球を超えているため、六日目の3日間連続登板および捕手として出場できない。
投手E	40	40 40	休	80	0 40	休	一、二日目で40球以内の3連投をしているため、三日目は投手・捕手として出場できない。四日目は80球のため五日目は投球した時点から1試合目に登板してなくても連続する2日間で80球を超えるため六日目は投手・捕手として出場できない。
投手F	30 50	休 ※捕手可	40 40	40	休	80	ダブルヘッダーで80球以内であっても、どちらかの試合で40球を超えた場合は、3連投できないが、 ※連続した2日間で80球以内なので、翌日は捕手としては出場できる。 第3日目からの3連投は40球以内なので可能であるが、3連投した投手は投手・捕手として出場できない。
投手G	40 40	40 休	休	0 40	40 40	休	3連投は40球以内なので可能であるが、第二日目第二試合・第六日目は投手・捕手として出場できない。 また、3連投する場合、1試合目・2試合目は打者の途中であっても40球以内に交代しなければならない。

「小学生投手の投球制限統一ガイドライン」の適用例

※レギュラー・ジュニアの部

	第一日 目	第二日 目	第三日 目	第四日 目	第五日 目	第六日 目	備 考
投手A	70	0	70	0	70	0	70球投げた翌日には登板していないため、翌々日には70球投球できる。 ※打者終了時に70球を超えても、1試合分の最大カウント数は70球
投手B	70	35	休	70	0	70	連続する二日で105球の制限があるため、一日目70球投球した場合、二日目は35球が最大となる。
投手C	30	30	休	40	65	休	1日の最大投球数70、かつ連続する二日間105球未満だが、3連投禁止のため、第三日目は登板できない。※捕手としては出場可能
投手E	50 20	休	70	0	70	0	ダブルヘッダーの登板は可能だが、1日70球制限のため、第一日目の1試合目に50球投球した場合、2試合目は20球が最大となる。 また、ダブルヘッダーで2試合登板した場合、連続する二日間投球を行ったことになるため、第二日目は登板できない。※捕手としては出場可能
投手F	35	0 70	休	70	35 休	休	第一日目(第四日目)に登板しているため、第二日目(第五日目)のダブルヘッダーは、1試合目、2試合目どちらかしか登板できない。加えて、3連投禁止のため、第三日目(第六日目)は登板できない。 ※捕手としては出場可能 連続する二日で105球の制限があるため、第二日目は70球、第五日目は35球が最大となる。

【小学生・中学生 共通事項】

※打席の途中で制限数がきた場合は当該打者の打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
※数字は投球数。「休」は投手・捕手として出場できない日。(小学生は捕手の出場は可)「0」は登板しなかった試合。
※指導者は、公式戦だけでなく、練習試合も対象となっていることを認識する。

2日間で3試合に登板するときの注意点

※2日間で3試合登板するには、1試合でも40球より多く投げてはいけない。40球は大丈夫です。41球はダメ。

第1日目		第2日目	
第1試合	第2試合	第1試合	第2試合
39球	40球	40球	投球禁止(捕手不可)
打者の途中でも交代が必要。	1日の投球数が79球で上限投球数の80球に達していないため、2試合目で40球を投球した時点で降板をしないと2日目に投球できない。打者の途中でも交代が必要。	2日間で119球の投球であるが3連投目の40球の制限が来たので最後の打者として打ち取るまで投球可能	
40球	40球	投球不可	投球禁止(捕手不可)
打者の途中でも交代が必要。	但し1日の投球上限が80球のため、最後の打者は打ち取るまで投球可能。上限以上の投球数はカウント数は加算しない。	前日ダブルヘッダーの当番で最後の打者として実質40球を超えて投球したので投球不可(前日2試合とも40球以下であれば3連投として投球可能)	

第1日目		第2日目	
第1試合	第2試合	第1試合	第2試合
39球	40球	休	40球
打者の途中でも交代が必要。	1日の投球数が79球で上限投球数の80球に達していないため、2試合目で40球を投球した時点で降板をしないと2日目に投球できない。打者の途中でも交代が必要。		同上 最後の打者として40球超えて投球可能
40球	40球	投球不可	投球不可
打者の途中でも交代が必要。	但し1日の投球上限が80球のため、最後の打者は打ち取るまで投球可能。上限以上の投球数はカウント数は加算しない。		

第1日目		第2日目	
第1試合	第2試合	第1試合	第2試合
39球	無	40球	40球
打者の途中でも交代が必要。		打者の途中でも交代が必要。	同上 最後の打者として40球を超えて投球可能
40球	無	40球	40球
打者の途中でも交代が必要。		打者の途中でも交代が必要。	3連投扱いとし3連投の投球可能数が40球、最後の打者に超えて投球可能である。

第1日目		第2日目	
第1試合	第2試合	第1試合	第2試合
休	39球	40球	40球
	打者の途中でも交代が必要。	打者の途中でも交代が必要。	2日間で119球であるが3連投の3日目40球の制限であるため最後の打者に超えて投球可能
休	40球	40球	40球
	打者の途中でも交代が必要。	打者の途中でも交代が必要。	2日間での投球上限数が120球のため、最後の打者は打ち取るまで投球可能。上限以上の投球数はカウントしない。

2023年3月13日

(公財)日本少年野球連盟

新型コロナウイルス感染防止対策 2023新ガイドライン

(2023.3月改訂版)

1.ボーイズリーグの活動における基本注意事項(以下、「基本事項」という。)

(1)活動参加に際して

- ①選手・指導者・保護者等・役員等すべての関係者は、当日の検温を測り、熱・風邪 症状(喉痛、咳、痰、呼吸症状)等の体調に異常がある場合は参加不可
- ②感染拡大期はもとより、活動への参加を強制するのではなく、選手の保護者から同意をとり、チームとして常に参加の意思を確認する

(2)マスク着用について

- ①マスク着用は原則、個人の判断に委ねる
- ②バス移動の場合は、8割程度で乗車し換気をすること
換気が難しい場合はマスクを着用する

(3)屋内での活動について

- ①密にならないように注意し換気をすること

(4)昼食等飲食時の注意

飲食する場合は、以下を遵守すること

- ① 食事前等に手洗い、手指消毒すること
- ② 黙食とする
- ③ 保護者等が配膳する場合は、選手・保護者はマスク着用

(5)手洗い、消毒の慣行

活動の際には、こまめな手洗い・手指消毒と使用後の備品の消毒などの慣行をチームとして義務づけること

(6)備品・消耗品の常備

チームは手指用消毒薬、備品用消毒薬、石鹸、体温計、ペーパータオル等を常備すること

(7)活動参加者の把握(チーム内での感染拡大防止のため)

チーム及び大会等の主催者は、活動における参加者を「新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿」等の提出により把握しておくこと

2.主催大会、地区大会の注意事項

(1)大会開会式、閉会式について

- ①開催会場の了承を得て会場の規則を遵守したうえで開催を認める

(2)大会運営について

- ①室内本部はマスク着用、必要最低限の者で運営を行う。換気を行ない、密を避ける。
- ②球場責任者は、各担当者を配置して、チーム代表に観客等含めて密にならないよう指導し、消毒液・手洗い用、ハンドソープ等を設置すること(本部席、ベンチ、トイレ等)
- ③各チームは試合開始1時間前に大会本部に到着すること
- ④各チームは、チーム責任者が登録役員・選手名簿、オーダー表、「新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿」を本部受付に提出する
- ⑤試合前審査は、コロナ禍前と同様に前試合の4回終了までに整列して行う。
但し、選手は氏名、生年月日を発声しない。球場運営責任者が指導者・選手などに「基本事項」1-(2)を説明・確認する。
- ⑥球場入場時に大会本部役員は「新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿」記載の体温を確認し、人数分のリストバンド又はシールをチーム責任者に配布し参加名簿の全員につけてもらい大会参加者であることを示す。また、アルコール消毒を実施する
- ⑦試合中は、チーム責任者は「基本事項」1-(2)をチーム内で徹底させること(観戦保護者等含む)
- ⑧試合終了後は密を避けるために速やかに会場から解散する
- ⑨接待・運営は密を避けて行うこと
1-(3)「昼食等飲食時の注意」を遵守する
飲料等については、配膳する前に手洗い・消毒
感染防止に配慮した使い捨て容器の使用を推奨する。使い捨て以外の食器等は合成洗剤で必ず洗浄すること
- ⑩役員、一般の観戦者には、受付名簿に氏名、電話番号、体温を記入して頂く
- ⑪その他細目については、大会主催者が本ガイドラインの趣旨に基づき大会運営細目等を別途定めて大会を運営する

3.遠征・合宿等、入部歓迎会・卒部式・祝勝会等の行事について

(1)行事開催について

- ①ブロック行事については、ブロック長が責任を持って安心・安全を確保して実施する
- ②支部行事については、支部長が責任を持って安心・安全を確保して実施する
- ③チーム行事については、チーム代表が責任を持って安心・安全を確保して実施する

(2)練習試合・遠征について

- ①練習試合は、特に相手チームとの交流については「基本事項」を遵守すること

(3)入部歓迎会・卒部式・祝勝会・新年会等について

- ①チーム行事については、チーム代表が責任を持って安心・安全を確保して実施する

4.チーム内で感染者が出た場合の対応・対策について

(1)選手・指導者及び同居家族が陽性となった場合

- ①選手・指導者及び同居家族が陽性となった場合は、必ずチームに報告すること(普段からチーム内で連絡徹底を指導)
- ②陰性となるまでチーム活動への参加は禁止すること

(2)大会期間中の連盟等報告について

- ①大会期間中に参加しているチーム関係者に陽性者が判明した場合は、当該チームの代表者は、速やかに大会運営本部及び支部長を通じてブロック長に報告すること
- ②大会主催者は、本通達の「基本事項」に照らして感染拡大の恐れがあると判断した場合は、直ちに大会を中止・延期にするか、または、当該チームと対戦・接触したチームに対する出場辞退等を検討する。
- ③報告を受けたブロック長が感染拡大の恐れが高いと判断した場合は上記によらず連盟本部と協議の上、中止・延期等の決定ができることとする。また、連盟主催の大会においては、これを会長が判断する

以上、本ガイドラインを遵守した上でボーイズリーグの活動に努めることとし
また、各大会主催者は感染状況に応じ 大会時に感染リスクを下げるために感染対策を付加することが出来る

歴代 優勝／準優勝チーム

優 勝

- 第1回 石川ボーイズ (北陸支部)
- 第2回 小松ボーイズ (北陸支部)
- 第3回 石川ボーイズ (北陸支部)
- 第4回 鯖江ボーイズ (福井県支部)
- 第5回 鯖江ボーイズ (福井県支部)
- 第6回 鯖江ボーイズ (福井県支部)
- 第7回 鯖江ボーイズ (福井県支部)
- 第8回 名古屋富士ボーイズ(愛知県西支部)
- 第9回 愛知豊橋ボーイズ(愛知県西支部)
- 第10回 岐阜東濃ボーイズ(岐阜県支部)

準 優 勝

- 金沢ボーイズ (北陸支部)
- 白山能美ボーイズ (北陸支部)
- 三好東郷ボーイズ(愛知県西支部)
- 白山能美ボーイズ (北陸支部)
- 岡崎葵ボーイズ (愛知県東支部)
- 若狭ボーイズ (福井県支部)
- 若狭ボーイズ (福井県支部)
- 鯖江ボーイズ (福井県支部)
- 鯖江ボーイズ (福井県支部)
- 西濃ボーイズ (岐阜県支部)

第11回 コロナウィルス感染予防により中止

第12回 天候不良・コロナウィルス感染予防により中止

第13回 西尾ボーイズ (愛知県東支部) 名古屋緑ボーイズ (愛知県中央支部)



第13回優勝・西尾ボーイズ



第13回準優勝・名古屋緑ボーイズ



第13回第3位・小松ボーイズ

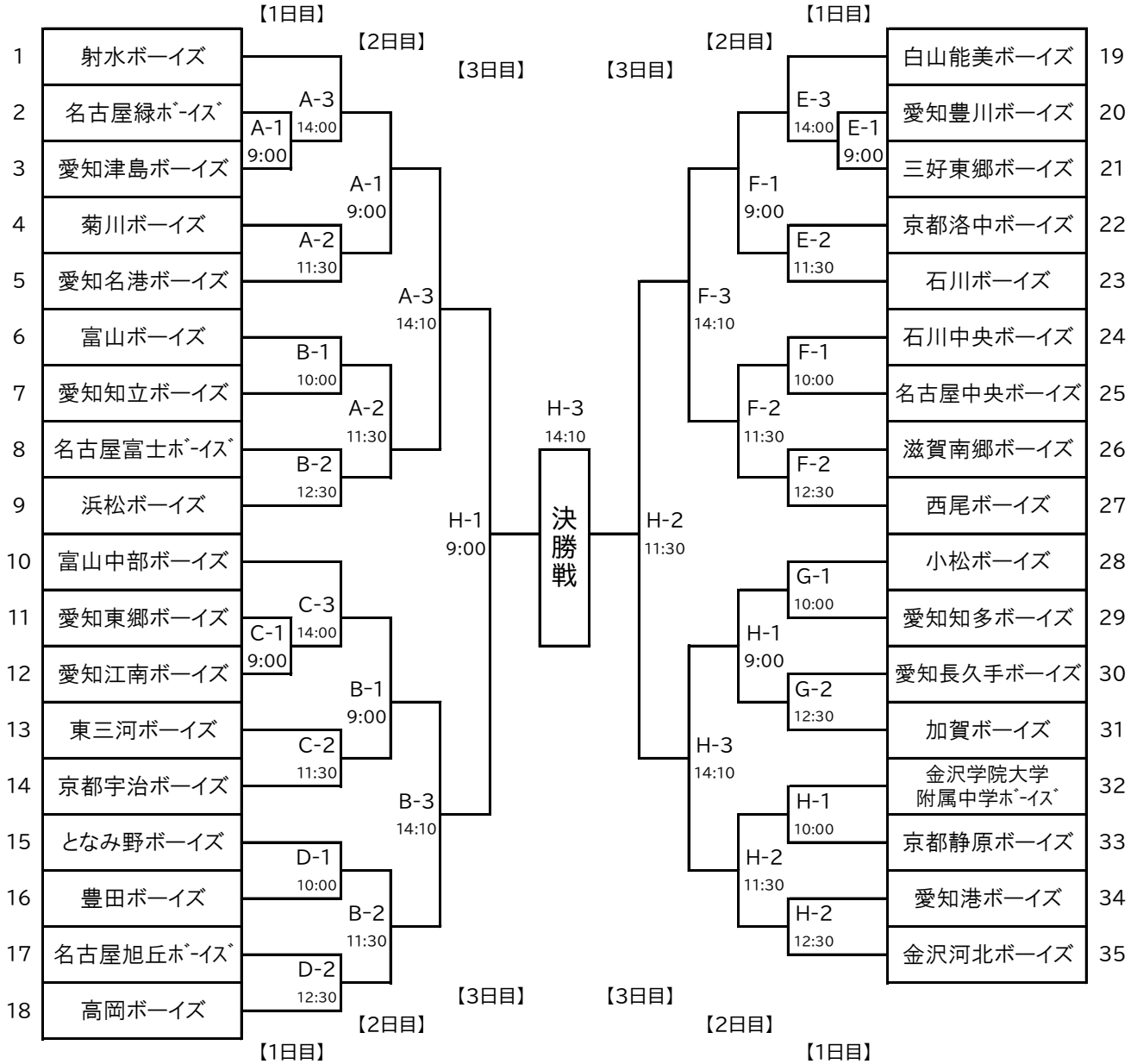


第13回第3位・飛騨高山ボーイズ



第14回 日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会

トーナメント表



※試合状況や得点などの問合せは、球場管理所へ行わないようお願いします。

- A 富山県営新港野球場
- B 立山町総合公園野球場
- C 滑川市営本丸球場
- D 南砺市城南スタジアム
- E 物見山野球場
- F 寺井野球場
- G 片山津野球場
- H 金沢学院グリーンフィールドⅢ

- 富山県高岡市金屋
- 富山県中新川郡立山町野沢1
- 富山県滑川市堀江983
- 南砺市城端字吉兵衛島310
- 石川県能美市来丸町ワ12
- 石川県能美市栗生町西7
- 石川県加賀市潮津町ソー1
- 石川県金沢市末町10(末町交差点を西へ曲がる)



第14回 日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会 審判割当表

Ver. 0312

	試合	試合開始 予定時間	球審	塁審			試合会場	会場運営	常任数
				一塁	二塁	三塁			
1 日 目	A-1	9:00	常任	射水	常任	射水	富山新港の森 グラウンド	射水ボーイズ	3
	A-2	11:30	常任	名古屋緑	常任	愛知津島			
	A-3	14:00	常任	菊川	常任	愛知名港			
	B-1	10:00	常任	名古屋富士	常任	浜松	立山町野球場	富山ボーイズ	2
	B-2	12:30	常任	富山	常任	愛知知立			
	C-1	9:00	常任	富山中部	常任	富山中部	滑川本丸野球場	富山中部ボーイズ	3
	C-2	11:30	常任	愛知東郷	常任	愛知江南			
	C-3	14:00	常任	東三河	常任	京都宇治			
	D-1	10:00	常任	名古屋旭丘	常任	高岡	城南スタジアム	となみ野ボーイズ	2
	D-2	12:30	常任	となみ野	常任	豊田			
	E-1	9:00	常任	白山能美	常任	白山能美	物見山野球場	白山能美ボーイズ	3
	E-2	11:30	常任	愛知豊川	常任	三好東郷			
	E-3	14:00	常任	京都洛中	常任	石川			
	F-1	10:00	常任	滋賀南郷	常任	西尾	寺井野球場	石川中央ボーイズ	2
	F-2	12:30	常任	石川中央	常任	名古屋中央			
	G-1	10:00	常任	愛知長久手	常任	加賀	片山津野球場	小松ボーイズ	2
	G-2	12:30	常任	小松	常任	愛知知多			
	H-1	10:00	常任	愛知港	常任	金沢河北	金沢学院グリーン フィールドⅢ	金沢学院大学附 属中学ボーイズ	2
H-2	12:30	常任	金沢学院中学	常任	京都静原				
2 日 目	A-1	9:00	常任	初日B-1勝者	常任	初日B-2勝者	富山新港の森 グラウンド	射水ボーイズ 富山ボーイズ	3
	A-2	11:30	常任	初日A-3勝者	常任	初日A-2勝者			
	A-3	14:10	常任	北陸BL	常任	北陸BL			
	B-1	9:00	常任	初日D-1勝者	常任	初日D-2勝者	立山町野球場	富山中部ボーイズ 高岡ボーイズ	3
	B-2	11:30	常任	初日C-3勝者	常任	初日C-2勝者			
	B-3	14:10	常任	北陸BL	常任	北陸BL			
	F-1	9:00	常任	初日F-1勝者	常任	初日F-2勝者	寺井野球場	白山能美ボーイズ	3
	F-2	11:30	常任	初日E-3勝者	常任	初日E-2勝者			
	F-3	14:10	常任	北陸BL	常任	北陸BL			
	H-1	9:00	常任	初日H-1勝者	常任	初日H-2勝者	金沢学院グリーン フィールドⅢ	金沢学院大学附 属中学ボーイズ	3
H-2	11:30	常任	初日G-1勝者	常任	初日G-2勝者				
H-3	14:10	常任	北陸BL	常任	北陸BL				
3 日 目	H-1	9:00	常任	常任	常任	金沢学院グリーン フィールドⅢ	白山能美ボーイズ 金沢学院大学附 属中学ボーイズ	6	
	H-2	11:30	常任	常任	常任				
	H-3	14:10	常任	常任	常任				

※大会初日及び2日目は、審判員（BL-3）のご協力をお願い申し上げます。

メンバー表 ※トーナメント順での掲載です

1 射水ボーイズ

代表	中井 昌人
監督	檜物 将央
コーチ	夏野 敏之
マネージャー	小林 奈津子
22	主将 京谷 琉生 3年
2	宮川 恵和 3年
3	高野 快理 3年
5	林 煌生 3年
6	平瀬 壘翔 3年
7	浜井 優斗 3年
8	大門 準紀 2年
9	濱田 絢吾 2年
10	益塚 悠輝 3年
11	秋元 有海 3年
14	法土 春道 2年
18	境 悠真 3年
19	高井 隆一 3年
20	佐伯 圭次郎 3年
25	明道 太志 2年
27	野口 澄人 2年
32	石丸 凜 3年
34	二口 力絆 2年
55	山本 健翔 2年
88	穴田 浩輝 2年
89	高木 陽路 2年
99	朽木 風生 3年

2 名古屋緑ボーイズ

代表	家田 芳裕
監督	亀山 浩
コーチ	眞邊 健吾
マネージャー	森岡 純
18	主将 田中 朝岳 3年
0	山田 善斗 3年
7	木下 拳斗 3年
9	山本 恭平 3年
10	上江瀧 拓未 3年
11	田口 海斗 3年
13	高木 晴仁 3年
19	井上 雄太 3年
26	小山 大輝 3年
29	古川 太慳 3年
37	久村 海地 3年
38	谷内田 零 3年
40	田中 万尋 3年
44	長谷川 舜 3年
47	松田 煌平 3年
48	武馬 侑哉 3年
55	佐藤 凜空 3年
61	山田 椰月 3年
62	十河 壱成 3年
64	藤井 航 3年
66	大塚 裕士 3年
78	竹内 丈翔 3年
79	森岡 謙心 3年
89	石田 俊一郎 3年
99	水野 心誠 3年

3 愛知津島ボーイズ

代表	山岸 昌弘
監督	国森 由剛
コーチ	池田 祐城
マネージャー	上村 隼大
5	主将 横井 仁賢 3年
1	伊藤 優汰 3年
2	藤田 大翔 3年
3	杉原 拓斗 3年
4	松崎 青空 3年
6	崎原 琉兵 3年
7	谷口 ジョンハリー 3年
8	岩田 竜之介 3年
9	大岩 瑞生 3年
10	佐々木 渉 3年
11	皆川 瑛翔 3年
12	片山 智尊 3年

4 菊川ボーイズ

代表	池田 竜司
監督	60 鈴木 修平
コーチ	50 後藤 英希
マネージャー	鈴木 芳美
24	主将 瀝美 凧海 3年
0	小金井 琳王 3年
10	萩原 来玖 2年
11	矢部 侑 3年
13	鈴木 奏 3年
14	國川 翔輝 3年
15	原田 阿流把 3年
18	齋藤 隆太 3年
19	鈴木 颯真 3年
21	荒木 壘翔 3年
25	矢部 遼太 3年
26	長塚 颯汰 3年
27	大岩 翔斗 3年
35	匂坂 虎太郎 3年
40	岩田 瑠生 3年
51	笹瀬 琢斗 2年
55	西尾 颯月 2年
58	小林 蒼空 3年
63	松本 惟牙 2年
64	新 智也 3年
73	大森 寛己 3年
80	望月 理人 2年
82	加藤 永遠 3年
87	佐藤 楓馬 3年
88	井村 健志 2年

5 愛知名港ボーイズ

代表	友田 淳雄
監督	奥村 尚
コーチ	加賀 悟朗
マネージャー	奥村 治
3	主将 水谷 太一 3年
0	山口 怜 3年
4	内田 隼太 3年
5	朝長 啓一郎 3年
6	伊藤 蓮 3年
8	相川 諒慈 3年
9	太田 來毅 3年
10	杉山 璃空 2年
12	浅田 遼二 3年
17	土屋 颯佑 3年
18	長岡 拓海 3年
19	今井 麗鳳 3年
45	後藤 駿平 3年
55	堀田 将大 2年
86	小久保 颯弥 2年

6 富山ボーイズ

代表	島 隆之
監督	小田 満
コーチ	上山 博之
マネージャー	出江 克也
6	主将 砂田 祥吾 3年
1	藤岡 大翔 3年
2	佐伯 真聡 3年
3	前田 晃太郎 3年
4	三村 優心 3年
5	田中 亜琉 3年
7	新村 航太 3年
8	浅井 亮介 3年
9	清水 佑有真 3年
10	出江 健人 3年
11	堀田 徹平 3年
12	中嶋 祥吾 2年
13	澤井 拓夢 3年
14	木村 昭斗 3年
15	竹島 大葵 3年
16	谷井 将磨 2年
17	秋岡 柚稀 2年
18	篠田 琥太郎 2年
19	柳瀬 蒼太 2年
20	中川 泰雅 2年
21	中川 凱斗 2年
22	藤樫 広夢 2年
23	舟崎 弾 2年
24	森下 虹 2年
25	木場谷 明宙 2年

メンバー表 ※トーナメント順での掲載です

7 愛知知立ボーイズ

代表	土屋 尚史
監督	西川 弘樹
コーチ	鎌桑 徳裕
マネージャー	
24	主将 伊藤 空和 3年
1	山口 桜舞 3年
5	加藤 心汰 3年
6	加藤 大雅 3年
8	小川 竜矢 3年
14	小池 隆貴 3年
17	磯部 元志 3年
21	出口 慧真 3年
22	古田 章貴 3年
23	椎葉 光輝 3年
25	吉田 隆之助 3年
27	磯貝 俊扶 3年
31	牧野 平慈 3年
32	鈴木 優空 3年
51	田中 翔 3年

8 名古屋富士ボーイズ

代表	玉置 正樹
監督	青山 富弘
コーチ	川上 忠
マネージャー	加藤 飛龍
17	主将 杉浦 健真 3年
3	樋口 慶 2年
4	白川 葵己 3年
7	笠井 敬太 3年
8	菅原 有一 2年
13	三鍋 大心 3年
18	加藤 嶺乙 3年
21	山崎 智貴 3年
23	中村 彪真 3年
24	吉田 瑛太 2年
27	今村 祐星 3年
31	浅井 颯太 3年
32	杉山 竜司 3年
33	加賀 斗耶 3年
36	河井 優翔 3年

9 浜松 ボーイズ

代表	山本 浩士
監督	中村 永司
コーチ	鈴木 広達
マネージャー	畑中 紳吾
88	主将 久米 徠翔 3年
0	梅谷 陸翔 3年
2	内藤 大翔 3年
4	堀内 遥斗 2年
8	柳田 優 3年
10	齋藤 叶夢 3年
11	近藤 悠斗 2年
12	粟倉 亨真 3年
19	大高 颯介 3年
25	石田 新 3年
27	仲秋 旬輝 3年
40	古田 旬之介 3年
41	岡田 風輝 3年
49	村井 琉風 3年
51	橋本 瑠偉 3年
55	小杉 亜蓮 3年
66	伊原 祐翔 3年
77	井口 征大 3年
92	細川 旺芯 3年
95	柴田 海真 3年

10 富山中中部ボーイズ

代表	野替 隆博
監督	河井 悟
コーチ	中瀬 拓幸
マネージャー	草野 智也
25	主将 石坂 和享 3年
1	川添 涉 2年
2	岩井 拓望 3年
3	堀田 奏弥 3年
7	滝上 煌紀 3年
9	岩上 壮亮 3年
10	金川 太一 2年
11	外山 隼 2年
17	横山 力 2年
18	村上 琉音 3年
19	稲谷 扇大 3年
21	河井 絢音 2年
22	武田 煌生 3年
23	元文 颯真 2年
24	小林 誇虎 2年
31	吉岡 琉生 2年
33	吉崎 遼 2年
34	川上 琉人 3年
37	三鍋 清乃 2年
41	草野 大哉 3年
48	曾我 政仁 3年
51	池田 奏翔 2年
55	中瀬 叶大 2年
85	犬嶋 天河 2年
89	五十嵐 優月 2年

11 愛知東郷ボーイズ

代表	黒沢 淳
監督	宮原 剛
コーチ	井野 博文
マネージャー	中垣 達也
10	主将 角田 龍彦 3年
2	石川 璃空 2年
3	縦山 遥斗 2年
5	川島 蓮 2年
6	都築 海翔 2年
8	坂脇 天基 2年
9	伊藤 瑛琉 2年
11	川崎 雄太朗 2年
12	藤田 壮真 2年
14	菅野 真大 2年
15	細谷 颯汰 2年
16	北浦 暖士 2年
18	藤井 脩駆 2年
20	中垣 遼 2年
21	鈴木 陵日 2年
22	古田 愛輝 2年
24	横井 佑磨 2年
25	近藤 壮桜 2年
27	佃 幸志郎 2年
34	澤田 悠生 2年
51	麻田 海聖 2年
55	榎田 訓愛 2年

12 愛知江南ボーイズ

代表	住藤 重光
監督	縄田 武志
コーチ	森 哲也
マネージャー	山下 佳宏
16	主将 森 柁景 3年
1	富成 貴太 3年
2	長屋 瑛大 3年
3	浅野 祐陽 3年
4	山下 響也 3年
5	川口 拓真 3年
6	岩田 憲大 2年
7	松山 太輔 3年
8	石川 歩夢 2年
9	渡邊 旬道 3年
10	山中 柁平 3年
11	栢本 実那人 3年
12	渡邊 成道 3年
13	大西 悠斗 2年
14	吉田 藍士 3年
15	宮瀬 晴基 3年

メンバー表 ※トーナメント順での掲載です

13 東三河ボーイズ

代表	初鹿 貴廣
監督	牛山 猛
コーチ	湯浅 美考
マネージャー	井下 政喜
41	主将 小林 優太 3年
2	中村 龍仁 3年
3	藤本 優真 3年
4	佐々木 柚太朗 3年
5	熊谷 琉希 2年
6	足木 愛杜 2年
7	丹羽 匡 3年
9	牧野 奨 2年
11	石原 大誠 2年
12	榊原 忠佑 2年
14	尾崎 亮太 2年
15	森 賢大朗 2年
16	白井 勇吉 3年
20	鈴木 永遠 3年
21	福井 春基 3年
27	荒川 太陽 3年
28	柴田 權成 3年
29	杉浦 大輝 2年
33	岩瀬 充規 2年
42	竹下 武蔵 2年

14 京都宇治ボーイズ

代表	片山 三好
監督	田中 太朗
コーチ	水岡 憲治
マネージャー	中田 学
6	主将 長谷川 瑛士 3年
1	谷口 悠斗 3年
5	保田 駿介 3年
7	北岡 勇人 3年
8	篠原 大 3年
9	中村 律月 3年
10	北川 蓮 3年
12	小西 泰誠 3年
16	太田 雅親 3年
19	重久 善健 3年
20	谷山 大地 3年
27	中脇 良唯寿 3年
35	中田 星輝 3年
39	中川 白虎 3年
55	塩見 虎太郎 3年
89	阿部 大尊 3年

15 となみ野ボーイズ

代表	野原 雅明
監督	前田 満
コーチ	小山 智志
マネージャー	山崎 誉之
24	主将 柴垣 俐斗 3年
1	石田 尚樹 2年
3	永森 昊 1年
4	高桑 颯太 2年
5	山本 真聖 2年
6	小山 健太 3年
7	谷 亜伊斗 2年
8	尾田 敦貴 2年
9	井波 虎空 1年
10	湯浅 颯斗 2年
11	河合 太郎 1年
13	永森 颯 1年
14	木村 力 2年
15	山崎 琉生 2年
17	渡辺 優太郎 3年
18	川合 柊 3年
19	窪城 翔栄 1年
22	吉田 琥珀 3年
23	川合 怜 1年
30	飛渡 亮介 2年
31	長谷川 優月 2年
33	川北 智也 2年
51	大井川 翔真 3年
55	徳田 元輝 1年

16 豊田ボーイズ

代表	多和田 健次
監督	釜田 尚毅
コーチ	吉弘 圭佑
マネージャー	野村 寿道
20	主将 上田 陽生 3年
0	村田 史頼 2年
1	矢野 徠王 2年
2	深田 早亮 2年
3	長屋 快青 3年
4	加藤 絢己 3年
5	坂本 創士 2年
6	池田 有我 3年
7	辻 竜乃介 3年
8	大山 愛斗 3年
11	近藤 陽生 2年
12	向島 一貴 2年
16	中村 和暉 2年
18	近藤 天吾 2年
21	渋谷 桜太 2年
22	中野 壮汰 2年
28	白柿 武琉 3年
29	岩城 幸翼 3年
33	近藤 想悟 2年
34	吉弘 泰成 3年
37	山田 凱斗 3年
41	山下 航平 2年
44	影山 大河 3年
55	阿部 太輝 2年
66	加藤 成閃 3年

17 名古屋旭丘ボーイズ

代表	澤中 渉
監督	虫賀 千修
コーチ	滝本 雅晴
マネージャー	長尾 脩平
52	主将 鈴木 大梧 3年
2	佐藤 壮 2年
3	熊崎 陽斗 3年
7	亀谷 祐和 2年
8	藤井 力斗 2年
11	寺島 豪健 2年
13	山本 蒼汰 2年
15	高井 駿 2年
17	山田 禪 2年
21	田口 虹太郎 3年
22	木原 大智 2年
24	後藤 大和 2年
27	河原崎 啓登 2年
34	後藤 大我 2年
44	土岐 将太 3年

18 高岡ボーイズ

代表	定塚 泰良
監督	小西 友之
コーチ	山本 浩二
マネージャー	宝田 幸喜
7	主将 山下 一颯 3年
1	登坂 陽太 2年
2	中 咲斗 2年
3	村上 慶二 3年
4	傳田 忠 3年
5	宝田 翔真 3年
9	石丸 虎太郎 2年
10	小林 宥雅 2年
11	橋本 銀士 3年
12	石村 愛翔 3年
13	秋山 倫太郎 2年
14	松本 侑大 3年
15	矢田部 海成 3年
17	荒木 隆多 3年
18	今井 光琉 3年
20	山田 航太郎 2年
21	高畑 直弥 3年
23	小西 悠仁 2年
24	工藤 拓也 2年
25	新井 煌己 2年
26	中尾 颯汰 2年
34	山本 蒼樹 2年

メンバー表 ※トーナメント順での掲載です

19 白山能美ボーイズ

代表	中町 光教	
監督	金田 肇	
コーチ	前田 直樹	
マネージャー	谷口 幸司	
24	主将 谷口 幸聖	3年
3	大湯 和志	3年
4	重吉 眺羽	3年
5	山崎 敦哉	2年
7	有馬 磨愛	2年
10	北村 陽向	3年
12	千田 賢輔	2年
15	新谷 翔磨	3年
16	南 翔太	2年
19	山崎 翔	2年
22	餘助 輝	2年
26	堤 理貴	2年
27	新谷 契夏	3年
44	間嶋 隆太	2年
48	西村 優哉	2年
49	江口 心球	2年
55	松林 玲恩	2年
77	北 和真	2年

20 愛知豊川ボーイズ

代表	小野 敏弘	
監督	堀込 博久	
コーチ	松浦 孝直	
マネージャー	眞河 一裕	
6	主将 鈴木 銀之助	3年
0	海保 栄登	3年
1	松浦 快成	3年
2	福井 心	3年
3	中尾 斗唯	2年
4	竹田 夏弥	3年
5	林 里珀	2年
7	中村 海斗	2年
8	中村 真央	3年
10	小原 総司郎	2年
16	三浦 大和	3年
17	佐橋 奏亮	3年
18	眞河 優之介	3年
19	吉田 埜人	3年
20	山田 仁之介	2年
21	豊田 吉生	2年
22	戸川 嵩琉	2年
23	山本 瑛仁	2年
24	水野 孝哉	3年
28	原田 匠翔	3年
32	伊藤 球馬	2年
37	森下 大維	2年
55	松井 碧斗	3年
93	平居 拓都	3年
99	日比 優登	2年

21 三好東郷ボーイズ

代表	仲野 兼司	
監督	伊藤 貴生	
コーチ	伊東 博	
マネージャー	稲川 英和	
95	主将 稲川 星夏	3年
2	宗像 蒼真	3年
3	神谷 瑛人	3年
4	片岡 拓夢	3年
7	江上 雄梧	3年
9	神田 琉葵	3年
20	永田 瑛斗	3年
22	森 雄吾	3年
23	大八木 駿	3年
28	石川 愛也	3年
31	塚田 大次朗	3年
34	加藤 壮真	3年
41	太田 光洋	3年
55	近藤 宏志郎	3年
65	長坂 竜佑	3年

22 京都洛中ボーイズ

代表	松本 博之	
監督	後藤 新一	
コーチ	吉本 圭介	
マネージャー	湯浅 誠夫	
3	主将 森田 純平	3年
1	田中 隆一	3年
4	西田 宗馬	3年
5	那須 涼太	3年
6	中村 勇翔	3年
7	栗山 一頼	3年
8	押目 蒼太	3年
9	平尾 航佑	3年
10	潮 禎之	3年
11	池田 康隆	3年
12	林 優大	3年
13	西村 仁	3年
14	小泉 仁	3年
31	瀬川 孝慶	2年
32	飯田 康介	2年
33	木村 泰雅	2年
34	奥原 一翔	2年
35	荒木 大心	2年
36	片山蓮太郎	2年
37	平尾 心一	2年
38	五十嵐斗蒼	2年
39	弓削 慶直	2年

23 石川ボーイズ

代表	村山 和光	
監督	山下 靖	
コーチ	上田 弘	
マネージャー	田口 竜也	
5	主将 涌田 龍之助	3年
1	閻谷 亮我	3年
2	福本 宙太	3年
3	北橋 勇弥	3年
4	金田 凱喜	3年
6	山崎 舜	3年
7	松井 清遥	3年
8	干場 研太郎	3年
9	入江 恒太郎	3年
10	竹田 虎之輔	3年
11	浅瀬 潔	3年
12	杉本 大和	3年
13	小竹 宙	3年
14	高田 大暉	3年
15	堀 啓人	3年
16	浅田 遥斗	2年
17	高木 悠伍	2年
18	櫻井 陸	2年
19	土井 權	2年
20	寺内 陸翔	2年
21	松本 悠翔	2年
22	中谷 凜乙	2年
23	長谷 悠慎	2年
25	米田 寛太	2年
29	松本 一輝	2年

24 石川中央ボーイズ

代表	佐々木 昭博	
監督	佐野 好貞	
コーチ	鷲尾 直哉	
マネージャー	新野 元希	
10	主将 小山 怜郎	3年
1	浜口 晃騎	3年
2	東 空良	3年
3	池上 友悟	3年
4	北村 礁磨	3年
5	谷島 敦希	3年
6	本 光陽	3年
7	二口 蒼大	3年
8	吉岡 樂久	3年
9	高木 康生	3年
11	上野 龍我	3年
12	竹内 翼	3年
13	高木 悠生	2年
14	森林 紅巴	3年
15	馬淵 晴渡	2年
16	上野 昊我	2年
17	中田 大貴	2年
18	新保 泰成	2年
19	坂下 奏太	2年
20	下 照英	2年

メンバー表 ※トーナメント順での掲載です

25 名古屋中央ボーイズ

代表	樋田 善光
監督	角 将人
コーチ	木下 篤史
マネージャー	山根 一公
1	主将 山根 一輝 3年
0	角 魁斗 3年
2	森島 一翔 3年
4	平野 修斗 3年
5	中村 拓也 3年
6	河野 丈侍 3年
7	指原 悠誠 3年
8	堀江 乃文 3年
9	矢頭 慶一 3年
10	日野 菜花 3年
11	伊藤 修汰 3年
15	村松 聖仁 3年
16	鈴木 渉太 3年
17	菅 一道 3年
18	鈴木 悠友 3年
55	堀尾 拓允 3年

26 滋賀南郷ボーイズ

代表	横関 昌史
監督	矢田 智一
コーチ	小西 慶正
マネージャー	藤田 笑津子
46	主将 阿部 奏音 3年
0	十川 頼人 3年
1	今村 充希 2年
3	大塚 晴渡 2年
5	坂元 悠悟 3年
8	西畑 瑠璃 3年
11	水垣 爽 2年
12	小松 寛顕 3年
14	丸山 奏人 3年
15	山下 周吾 2年
17	山下 蓮人 3年
22	村田 大志朗 3年
25	佐々木 涼希 3年
27	小池 瑛太 2年
31	松井 蓮太郎 3年

27 西尾ボーイズ

代表	榊原 隆弘
監督	岡田 良二
コーチ	佐橋 康伸
マネージャー	西原 麻美
11	主将 塚脇 颯太 3年
0	鈴木 陽向 3年
2	山口 大翔 3年
3	高部 琉磨 3年
4	平尾 謙伍 3年
6	持田 壮太 3年
7	杉浦 叶真 3年
8	三好 暁大 3年
9	杉浦 匠飛 3年
12	河口マテウス 2年
13	西原 琉生 3年
15	成田 和弘 3年
16	松本 和真 3年
18	杉浦 幸栄 3年
19	横井 太一 3年
22	池田 蓮 3年
24	鈴木 琉斗 3年
27	蝦名 快音 3年
33	中垣 樹己 3年
34	成瀬 響 3年
41	伊藤 大輝 3年
71	杉浦 憂志朗 2年
72	杉浦 光志朗 2年
77	村山 虎之介 3年
91	石川 球叶 3年

28 小松ボーイズ

代表	中山 晃一
監督	高橋 宏之
コーチ	田中 健
マネージャー	梶谷 武洋
1	主将 中川 友雅 3年
2	木村 隼大 2年
5	北出 大和 3年
6	本田 絆 3年
8	村永 大晟 2年
9	藤森 琉太 3年
10	瀬川 凜 2年
11	依田 柁太 3年
15	梶谷 海翔 3年
17	宮浦 峻 2年
18	高橋 大樹 3年
19	田島 來門 3年
20	大森 慧 2年
23	山川 立稀 2年
24	井出 昂佑 3年
25	筒井 翔太 2年
34	九谷 亘栄 3年
41	岩倉 康大 2年
55	東方 恋治 2年
77	秋山 優和 3年

29 愛知知多ボーイズ

代表	越智 学
監督	尾形 嘉崇
コーチ	榊原 浩二
マネージャー	後藤 賢司
1	主将 津末 駿晁 3年
3	近江谷 泰駕 3年
5	谷口 成星 3年
6	成田 輝佑 3年
7	橘田 一輝 3年
8	森田 倫矢 3年
10	坂本 翔太 3年
11	今井 颯海 3年
18	齋藤 悠偉 3年
19	白川 恵伍 3年
21	宮澤 潤 2年
22	後藤 駿斗 3年
23	土井 柁平 3年
25	田中 紘哉 3年
27	竹内 湊人 3年
33	藪内 太紀 3年
41	竹内 心道 3年
51	小川 順平 3年
55	三浦 煌生 3年
64	杉浦 大夢 3年
70	小島 鳳右 2年
71	佐伯 元 2年
72	中川 結太 2年
73	三島 康太郎 2年
74	大久保 晴空 2年

30 愛知長久手ボーイズ

代表	小林 正俊
監督	赤間 大輝
コーチ	浅井 実
マネージャー	稲田 兄生
0	主将 村瀬 将斗 3年
2	中村 唯人 3年
5	高野 晃志 3年
7	川口 裕輝 3年
10	池口 惺 3年
13	中尾 友紗希 3年
21	荒木 琢哉 3年
30	小川 巧 3年
33	坪内 瑛汰 3年
35	酒井 煌太 3年
40	加藤 玄暉 3年
41	近田 満琉 3年
44	小嶋 健太郎 3年
77	吉名 隼 3年
88	柘植 謙信 3年
90	森田 敬 3年

メンバー表 ※トーナメント順での掲載です

31 加賀ボーイズ

代表	井野上 盛光	
監督	竹田 和生	
コーチ	荒勢 茂一	
マネージャー	西田 龍美	
31	主将 川上 凌仙	3年
0	小林 祐太	2年
2	野尻 孝太郎	3年
5	赤神 佑真	3年
6	高橋 了丞	3年
8	西田 陽紀	3年
9	畦地 千歳	3年
10	中村 幸之亮	1年
16	上野 一路	3年
17	東 勇輝	3年
19	渡辺 陽唯呂	2年
22	宝榮 悠翔	3年
23	美濃屋 陽輝	1年
24	角 凌牙	1年
25	海老田 蒼	3年
32	吉田 英仁	1年
37	小畑 湊斗	3年
55	三浦 一輝	3年
77	小谷 聡太	3年
99	齊官 健太郎	3年

32 金沢学院大学 附属中学ボーイズ

代表	梅田 英範	
監督	岩井 大	
コーチ	山田 裕太	
マネージャー	今井 翔大	
1	坂本 橙矢	2年
2	堀内 虎太郎	2年
3	主将 久井 悠次郎	2年
4	篠木 陽太	2年
5	谷坊 琉偉	2年
6	池下 駈	2年
7	畑 佑靨	2年
8	小笠原 豊	2年
9	福田 竜万	2年
10	武藤 秀河	2年
11	竹内 佑	2年
12	宮嶋 和哩	2年
13	甲賀 刻	2年
14	川村 琉晟	2年
15	山本 琥太郎	2年
16	西山 琥	2年
17	吉野 翔	2年
18	中山 翔月	2年
19	安井 響	2年
20	深田 陸斗	2年
21	和田 透真	2年
22	坂本 ジョージ	2年

33 京都静原ボーイズ

代表	岡村 大樹	
監督	藤井 宏	
コーチ	櫻井 克彦	
マネージャー	岡村 治美	
99	主将 上田 脩馬	2年
23	岡村 直紀	2年
18	川村 悠人	2年
5	中村 連	2年
9	安藤 大稀	1年
16	伊川 桔平	1年
33	今井 恭太郎	1年
55	今井 龍之介	1年
17	岸 稜真	1年
27	日下 丈瑠	1年
4	小山 隆太郎	1年
21	田中 和之月	1年
7	辻 耕太郎	1年
2	中藤 裕右	1年
22	畠山 進次郎	1年
1	福本 剛士	1年

34 愛知港ボーイズ

代表	小河 徳和	
監督	堀田 将司	
コーチ	大須賀 辰郎	
マネージャー	糸井川 誠	
5	主将 関之尾 悠太	3年
1	松浦 大悟	2年
2	早瀬 天良	3年
3	萩 宙	3年
4	白石 稜真	3年
6	遠藤 恒輝	3年
7	荒木 蒼空	3年
8	栗脇 風透	3年
9	岡田 煌生	3年
10	溝口 留唯	3年
11	大須賀 琉季	3年
13	小田桐 綾斗	2年
19	今泉 玖斗	3年
22	兼岡 蒼至	3年
31	渡辺 莉生	2年
47	糸井川 佳大	3年

35 金沢河北ボーイズ

代表	松山 健一	
監督	山内 翔太	
コーチ	奥野 晃平	
マネージャー	高松 直人	
7	主将 南野 元哉	3年
1	長崎 正宗	2年
5	坂井 律仁	2年
6	百貴 陸	2年
8	富澤 武竜	3年
9	西元 涼優	3年
14	東 礼翔	2年
16	茶志川 龍星	2年
17	堀越 一綱	3年
18	池田 翔真	3年
23	浦崎 優也	3年
24	竹中 諒希	2年
29	福田 陸	2年
32	藤田 啓芳	3年
35	高桑 歩夢	2年
37	天井 柳成	3年
39	長谷川 朔	3年
48	杉本 一樹	2年
52	大桑 汐莉	3年
55	澤野 晃輔	2年
88	宇田尾 慶吾	3年

第14回北國新聞社旗争奪北陸大会

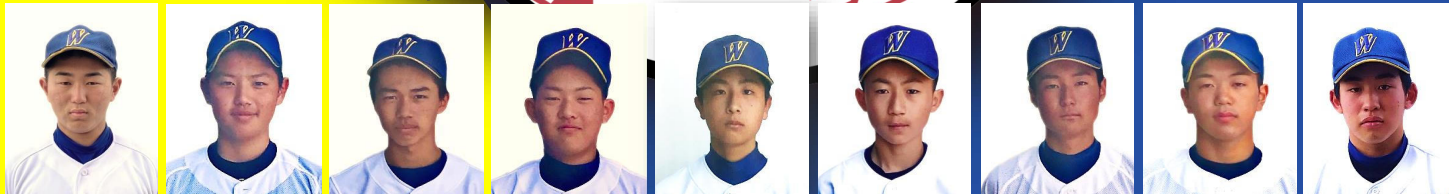
ISHIKAWA
BOYS

Wings

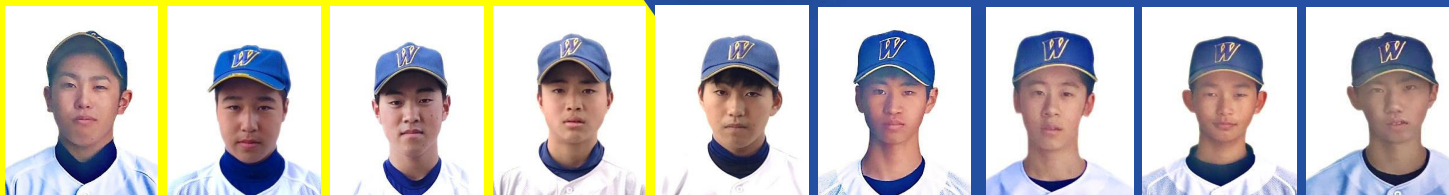


公益財団法人
日本少年野球連盟
北陸支部

主将



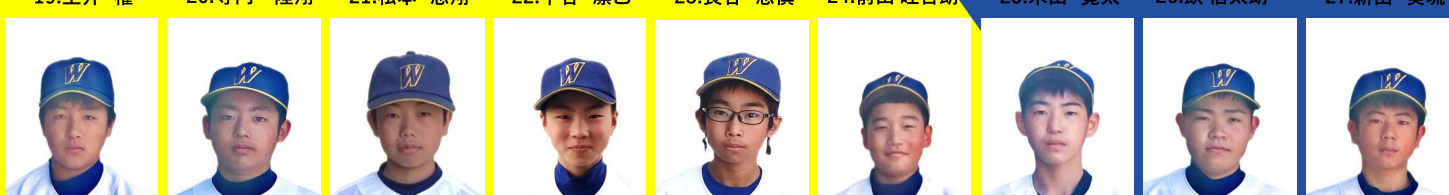
5. 浦田 龍之助 1. 関谷 亮我 2. 福本 宙汰 3. 北橋 勇弥 4. 金田 凱喜 6. 山崎 舜 7. 松井 清遙 8. 干場 研太郎 9. 入江 恒太郎



10. 竹田 虎之輔 11. 浅瀬 潔 12. 杉本 大和 13. 小竹 宙 14. 高田 大暉 15. 堀 啓人 16. 浅田 遥斗 17. 高木 悠伍 18. 櫻井 陸



19. 土井 權 20. 寺内 陸翔 21. 松本 悠翔 22. 中谷 凜乙 23. 長谷 悠慎 24. 前田 旺吉朗 25. 米田 寛太 26. 飲 信太郎 27. 新出 葵琉



28. 金田 宙大 29. 松本 一輝 30. 高田 晴 31. 杉本 一太 32. 窪田 龍祐 33. 森田 悠翔 34. 山崎 和真 35. 南 堅心 36. 戸出 陽大



37. 市村 優斗 38. 上田 龍星 39. 米田 尊 40. 竹田 文太 41. 丸井 耀翔



42. 井上 晃希 43. 喜多 隼大 44. 木井 琉仁 45. 佐山 優輝

代表：村山 和光	監督：山下 靖	コーチ：坂下 昌
副代表：山口 宏人	ヘッドコーチ：加藤 直樹	コーチ：上田 弘
副代表：山田 泰誠	マネージャー：田口 竜也	コーチ：権谷 範幸
副代表：高松 陽一	マネージャー：本多 晋	コーチ：高松 己希
副代表：土田 剛		コーチ：北橋 和浩
副代表：前田 毅		コーチ：石田 陸斗
副代表：江藤 望		コーチ：関谷 龍世



第14回北國新聞社旗争奪北陸大会

石川中央ボーイズ



第14回日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会



射水ボーイズ



第7期生		第8期生		第9期生	
22	京谷 琉生	8	大門 準紀	0	向山 弘音
2	宮川 恵和	9	濱田 絢吾	1	海老 大惺
3	高野 快理	14	法土 春道	4	釣 颯馬
5	林 煌生	25	明道 太志	12	矢野 太智
6	平瀬 塁翔	27	野口 澄人	13	大澤 翔
7	浜井 優斗	34	二口 力絆	15	山寄 琥太郎
10	益塚 悠輝	55	山本 健翔	17	松木 大河
11	秋元 有海	88	穴田 浩暉	21	森田 雄心
16	釣 陽輝	89	高木 陽路	23	鳥崎 晟
18	境 悠真			24	西川 恭輔
19	高井 隆一			30	門野 凌芽
20	佐伯 圭次郎			31	吉田 陽向太
32	石丸 凜			41	竹林 遥生
99	朽木 風生			51	柿谷 悠人
				56	糴谷 暖
				57	扇山 桐真
				77	南 琉惺

感謝する心

好きになる心

素直になる心



寄贈 射水ボーイズ三期生一同

第14回北國新聞社旗争奪北陸大会



加賀ボーイズ

代表 井野上 盛光

監督 竹田 和生

コーチ 荒勢 茂一 島崎 貴義 主税 仁也 柴山 大輝

● 20期生

主将 31 川上 凌仙	2 野尻 孝太郎	5 赤神 佑真
6 高橋 了丞	8 西田 陽紀	9 畦地 千歳
16 上野 一路	17 東 勇輝	22 宝榮 悠翔
25 海老田 蒼	37 小畑 湊人	55 三浦 一輝
77 小谷 聡太	99 齊官 健太郎	

● 21期生

0 小林 祐太 19 渡辺 陽唯呂

● 22期生

1 河田 晴紀	10 中村 幸之亮	11 坂下 洵斗
18 濱田 亘惺	23 美濃屋 陽輝	24 角 凌冴
27 竹本 憲史	32 吉田 英仁	66 北野 牙琥
88 上出 葵斗	92 辻野 真叶	



第14回日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会

金沢河北ボーイズ



	7.南野 元哉	8.富澤 武竜	9.西元 涼優
3年生	17.堀越 一綱	18.池田 翔真	23.浦崎 優也
	32.藤田 啓芳	37.天井 柳成	39.長谷川 朔
	52.大桑 汐莉	88.宇田尾 慶吾	
2年生	1.長崎 正宗	5.坂井 律仁	6.百貫 陸
	14.東 礼翔	16.茶志川 龍星	24.竹中 諒希
	29.福田 陸	35.高桑 歩夢	48.杉本 一樹
	55.澤野 晃輔		
1年生	0.西村 大翔	2.三上 颯輝	4.落合 倅亜
	10.佐藤 弘晟	11.竹端 卓翔	25.浦崎 翼
	51.徳野 裕心	67.坂田 遥絆	
	田村 奏	上野 瑛土	



金沢学院大学附属 中学ボーイズ



(1期生)

池下 駈

小笠原豊

川村琉晟

甲賀 刻

坂本ジョージ

坂本橙矢

篠木陽太

竹内 佑

谷坊琉偉

中山翔月

西山 琥

畑 佑醍

久井悠次郎

深田陸斗

福田竜万

堀内虎太郎

宮嶋和哩

武藤秀河

安井 響

山本琥太郎

吉野 翔

和田透真

(2期生)

天井新太

岩崎海里

小笠原充希

鍵谷大地

小関秋月

清水虎之介

中出裕都

東優一郎

福田 蓮

普久原佑有

藤森千登

第14回北國新聞社旗争奪北陸大会



小松ボーイズ



25期生(3年生)11名

背番号	選手名
1	中川 友雅
5	北出 大和
6	本田 絆
9	藤森 琉太
11	依田 柊太
15	椛谷 海翔
18	高橋 大樹
19	田島 來門
24	井出 昂佑
34	九谷 亘栄
77	秋山 優和

26期生(2年生)14名

背番号	選手名
2	木村 隼大
7	小西 琥空
8	村永 大晟
10	瀬川 凜
14	澤田 友樹
17	宮浦 峻
20	大森 慧
23	山川 立稀
25	筒井 翔太
27	久保 蒼士郎
41	岩倉 康大
44	林 礼樹
52	濱田 明秀
55	東方 恋治

27期生(1年生)19名

背番号	選手名
3	旭 隼
12	黍根 駆琉
13	久保 瑛慎
16	長谷川 蒼空
21	寺田 生牙
22	柴田 真博
26	山下 丈一郎
33	西 龍馬
35	大門 珂翔
42	林 丈太郎
51	椛谷 愁弥
59	高畠 将史
61	中村 彪雅
63	阿部 彪克
67	福村 晟琉
87	奥田 晋ノ介
88	綱村 宗馬
89	角井 優斗
99	堀口 元気

スタッフ

役職	氏名
代表	中山 晃一
統括副代表	井出 裕史
副代表	中川 和也
監督	高橋 宏之
ヘッドコーチ	奥村 知樹
コーチ	橋 和哉
コーチ	田中 健
コーチ	寺田 祐喜
コーチ	宮崎 太郎
コーチ	坂井 浩之
コーチ	荒川 千明

第14回日本少年野球 北國新聞社旗争奪北陸大会

↑ 高岡ボーイズ



スタッフ

代表 定塚 泰良	副代表 山田 博志	副代表 今井 浩一	副代表 上田 聖太郎
副代表 升山 博善	監督 小西 友之	コーチ 山本 浩二	コーチ 植村 雄司
コーチ 中山 明	コーチ 上田 崇寛	コーチ 林 陽太	コーチ 宮嶋 陸

20期生

7 主将 山下 一颯	3 村上 慶二	4 傳田 忠	5 宝田 翔真
11 橋本 銀士	12 石村 愛翔	14 松本 侑大	15 矢田部 海成
17 荒木 隆多	18 今井 光琉	21 高畑 直弥	

21期生

1 登坂 陽太	2 中 咲斗	9 石丸 虎太郎	10 小林 宥雅
13 秋山 倫太郎	20 山田 航太郎	23 小西 悠仁	24 工藤 拓也
25 新井 煌己	26 中尾 颯汰	34 山本 蒼樹	

22期生

6 私市 大俄	8 林 隼聖	16 小林 大峨	19 河原 天馬
22 金森 義典	27 小林 悠馬	28 大巻 貴翔	29 金子 凰之助



公益財団法人
日本少年野球連盟

第14回 日本少年野球 北國新聞社旗争奪 北陸大会

Tonami No

となみ野ボーイズ



代表 野原 雅明

監督 前田 満

コーチ 山崎 誉之 小山 智志 尾田 貴史

3期生 大井川 翔真 川合 柊 小山 健太 柴垣 俐斗

吉田 琥珀 渡辺 優太郎

4期生 尾田 敦貴 川北 智也 木村 力 高桑 颯太

谷 亜伊斗 飛渡 亮介 長谷川 優月 山崎 琉生

山本 真聖 湯浅 颯斗 石田 尚輝

5期生 川合 怜 河合 太朗 窪城 翔栄 永森 昊

永森 颯 井波 虎空 徳田 元輝



公益財団法人
日本少年野球連盟

第14回北國新聞社旗争奪北陸大会

富山ボーイズ



顧問 新井 淳
(富商硬式野球部OB会会長)

舎川 智也
(富山市市議会議員)

中澤 雅人
(東京ヤクルトスワローズ)

代表 島 隆之

副代表 宮田 克義
道井 正佳
三谷 昌幸

監督 小田 満

コーチ 金子 淳志
中川 隆司
上山 博之
平井 孝英
兜山 善教





第14回北國新聞社旗争奪北陸大会



富山中部ボーイズ

代表 野替 隆博 副代表 小島 章予 伊東 祐太

総監督 南 康彦 監督 河井 悟 ヘッドコーチ 中瀬 拓幸

コーチ 柴田 秀和 南波 昌輝 草野 智也 杉村 毅 窪田 賢人

第10期生

石坂 和亨
稲谷 扇大
岩井 拓望
岩上 壮亮
川上 琉人
草野 大哉
曾我 政仁
滝上 煌紀
武田 煌生
堀田 奏弥
村上 琉音

第11期生

五十嵐優月 関根 匠晴
池田 奏翔 外山 隼
犬嶋 天河 中瀬 叶大
金川 太一 三鍋 清乃
河井 絢音 横山 力
川添 涉 吉岡 琉生
元文 颯真 吉崎 遼
小林 誇虎

第12期生

五十嶋 眺大
河原 蓮人
坂口 昊
土反 悠聖
清水 天寅
高田 三輝
深川 志龍
道音 丈
村上 想芽
吉岡 真泷
吉田 玲緒

TCBoys

第14回北國新聞社旗争奪北陸大会

HW 白山能美ボーイズ



HakuSan Nomi

15th

15期生 (6名)

- | | | |
|-----|----|----|
| 主24 | 谷口 | 幸聖 |
| 3 | 大湯 | 和志 |
| 4 | 重吉 | 暁羽 |
| 10 | 北村 | 陽向 |
| 15 | 新谷 | 翔磨 |
| 27 | 新谷 | 契夏 |

16th

16期生 (13名)

- | | | |
|----|----|-----|
| 5 | 山崎 | 敦哉 |
| 7 | 有馬 | 磨愛 |
| 12 | 千田 | 賢輔 |
| 16 | 南 | 翔太 |
| 19 | 山崎 | 翔 |
| 22 | 餘助 | 輝 |
| 26 | 堤 | 理貴 |
| 31 | 前山 | 賢太郎 |
| 44 | 間嶋 | 隆太 |
| 48 | 西村 | 優哉 |
| 49 | 江口 | 心球 |
| 55 | 松林 | 玲恩 |
| 77 | 北 | 和真 |

17th

17期生 (22名)

- | | | | | | |
|----|----|-----|----|----|-----|
| 1 | 青山 | 旺志郎 | 25 | 奥村 | 星哉 |
| 2 | 亀田 | 也登 | 29 | 石黒 | 史恩 |
| 6 | 毛利 | 漣佑 | 33 | 増永 | 隼士 |
| 8 | 森 | 一師 | 34 | 山下 | 透真 |
| 9 | 津川 | 翔太郎 | 35 | 下里 | 聖輝 |
| 11 | 宮本 | 晃冴 | 36 | 石島 | 昇一郎 |
| 13 | 横内 | 一心 | 37 | 松田 | 侑月 |
| 17 | 有馬 | 周史 | 41 | 稲場 | 健留 |
| 18 | 杉永 | 結海 | 42 | 大森 | 悠生 |
| 21 | 藤野 | 翔 | 51 | 山口 | 徹真 |
| 23 | 西沢 | 颯太 | 78 | 嶋 | 藍生 |



HP

Instagram



御礼

本大会を開催するに際し、御協賛をお願い致しましたところ、少年たちの夢を育てる趣旨に御協賛を賜り誠にありがとうございました。

御愛情に心から感謝し、御礼申し上げます。

北陸支部役員

日本少年野球本部理事・北陸担当理事

	伊藤 裕章		
支部長	山西 祥夫	支部理事	梅田 英範
支部長代理	村山 和光	同	佐々木 昭博
副支部長	井野上 盛光	同	島 隆之
副支部長・会計理事	定塚 泰良	同	中井 昌人
総務部長	柚木 隆	同	中町 光教
事務局長	吉田 昌洋	同	中山 晃一
副事務局長	金森 新一	同	野替 隆博
副事務局長	南野 弘一	同	野原 雅明
支部審判長	本定 敏夫	同	松山 健一

2023 年度スローガン

GO FOR IT
～全力で進もう～



公益財団法人
日本少年野球連盟